

1. はじめに

第 14 回世界地震工学会議の開催に先立ち、現地組織委員会の代表である、LIU Yuchen 氏(中国国家地震局副局長)はじめ、ハルピンの工程力学研究所所長 WANG Zifa 博士、組織委員会事務局長 QI Xiaozhai 博士、他 3 名が来日することになった。そこで、IAEE (国際地震工学会)と日本地震工学会 (JAEE)と共催で急遽、標記の題名で公開の交流会を 8/29 (14:00~17:00)、建築会館ホールにて開催した。四川地震の地震動に関して中国側から初めての公式な紹介があるとのことで、直前に案内を出したにも関わらず、参加者は約 80 名に達した。

2. 発表者と発表項目・概要

まず、四川地震等で亡くなられた方に黙祷をささげ、司会の家村 IAEE 事務局長 (前 JAEE 副会長) から中国側参加者の紹介があった。こののち、双方を代表して鈴木 JAEE 会長と LIU 国家地震局副局長から、それぞれ挨拶があった。こののち、以下の 6 題の発表があった。

1) 中国工程力学研究所所長 WANG Zifa 博士 (写真 1)

・「Strong ground motion, damage and loss of the great Wenchuan Earthquake」: 四川地震において強震域等で記録された地震動の説明がまずあり、種々の被災状況について写真により、詳細な説明があった。

2) 東京工業大学、川島一彦教授

・「Japan-China cooperation for the restoration from the Wenchuan Earthquake」: 7 学会合同の四川地震連絡会議の活動状況の報告があった。

3) 瀨藤一起教授 (東京大学地震研究所)

・「中越および中越沖地震のメカニズムと地震動」: 特に中越沖地震を起こした断層の傾斜の向き決定に関しての説明がなされた。

4) 小長井一男教授 (東京大学生産技術研究所)

・「中越および中越沖地震による地盤の被害」: 地盤変状は地震の前後でも継続していることを理解して復旧する必要性を述べた。



写真 1 WANG Zifa 博士の四川地震に関する講演



写真 2 中・日双方からの質疑の状況

5) 壁谷澤壽海教授（東京大学地震研究所）

・「中越および中越沖地震による建造物の被害」：地盤と建造物の相互作用により被害が生じなかった、と考えざるを得ない事例が紹介された。

6) 14WCEE 組織委員会事務局長 QI Xiaozhai 博士

・「Preparation for 14WCEE」：14WCEE の準備状況は概ね順調であるが、論文題名や著者が変更されるなどによりプログラム編成に苦労していることが紹介された。

それぞれの講演に対して、写真 2 に示すように会場から活発な質疑が中・日双方からあった。

3. WANG Zifa 博士の発表について

WANG Zifa 博士の発表のうち、地震動について補足する。

- ・ 中国全土で約 2000 箇所の観測点があり、その内、211 が四川省にある。
- ・ 398 箇所の観測点で、1198 成分の記録が取れた。
- ・ 記録された最大の加速度は 967gal であり、震央から 22.2km で断層から 1.09km の汶川の観測点で記録された。また、震央から 87.5km で断層から 0.74km の綿竹の観測点での記録は 824gal であった。
- ・ 継続時間が長かった。500 秒続いた記録もあった。
- ・ 上下成分が大きかった。
- ・ 震源断層からの距離に応じた地震動が記録された。

4. その他

交流会終了後、懇親会がなごやかに開催された。懇親会には片山 IAEE 会長も駆けつけていただき、ご挨拶を頂戴した。

（文責：勝俣英雄：総務理事・大林組）